

公募制推薦入学試験

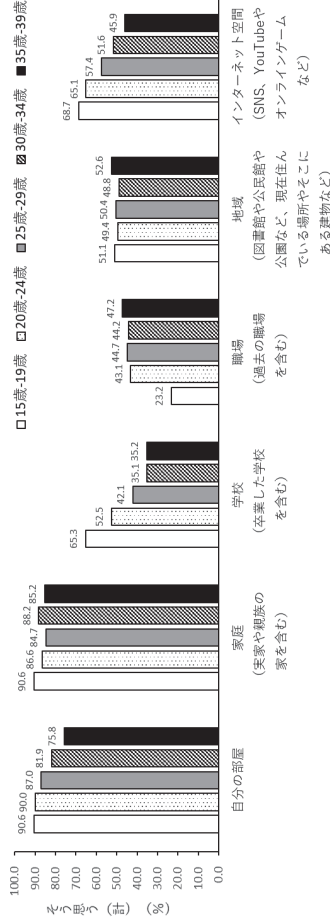
〈出典一覧〉

日 文	戸井田道三	『色とつやの日本文化』
心 理	内閣府	令和4年度「こども・若者の意識と生活に関する調査」調査結果の概要Ⅰ pp.64-66より作成
福 祉	厚生労働省	「3. ひきこもり地域支援センターの取組状況」. ひきこもり支援推進事業 .2022-03, https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/000882368.pdf (参照 2023-09-16). 一部改変
福 祉	厚生労働省	ひきこもり支援施策について. 厚生労働省社会・援護局地域支援課 . 2023-03. https://www.mhlw.go.jp/content/12602000/001099862.pdf .P9 (参照 2023-09-16)
初 教	国立社会保障・人口問題研究所	参考: 内閣府 . こども・若者の意識と生活に関する調査 (令和4年度). 2023-03. https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/r04/pdf-index.html . (参照 2023-09-16)
安 全	農林水産省	「人口ピラミッド画像」、2000年の画像・2025年の画像・2050年の画像を引用。 (https://www.ipss.go.jp/site-ad/TopPageData/PopPyramid2017_J.html)
ビジネス	日本経済新聞2023年9月25日 首藤若菜	『食料・農業・農村白書(令和5年版)』2023年, p288, より一部改変・引用
ビジネス	厚生労働省	「2024年問題」の行方(中)持続可能な物流 荷主も責任 〈経済教室〉 「職業別労働市場関係指標(実数)(平成23年改訂)(平成24年3月～)長期時系列表第21表」より作成。2012～2022年度の値は年間平均を示す。
ビジネス	日経コンピュータ 2023年5月25日号	「物流2024年問題」にITで挑む ラスト1年、データとロボに活路」39頁。
会 フ	日本経済新聞 2023年3月8日	「女性役員「経験・能力生きる」男性中心社会が壁に」

人間社会学部 心理学科 適性テスト 60分

以下の図は、内閣府が、令和4年度に若者を取り巻く現状及び課題を把握することを目的に実施した調査において、若者（15歳～39歳）の男女約7,000名が回答した結果の一部である。グラフには、6種類の場所（自分の部屋、家庭、学校、職場、地域、インターネット空間）それぞれについて、7次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）になっていますか、と尋ねた項目に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が、年齢階級別に示されている。

図. 自分にとっての居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）となっていると回答した割合



【問1】 この図からは、それぞれの場所が若者にとつての居場所となっているかについての特徴が2点読み取れる。1点目は年齢階級に関わらない場所による違い、2点目は年齢階級による違いである。この特徴2点が具体的にどのよう

【問2】 1点目 2点目

【問3】

人間社会学部 福祉社会学科 小論文 (800字) 60分

新たな社会的リスクとして、ひきこもりの課題がある。このような課題に対し、厚生労働省ではひきこもり対策の充実を図るため、ひきこもり支援推進事業を展開している。本事業では専門的な第一次相談窓口としての機能を有する「ひきこもり地域支援センター」が都道府県、指定都市に設置され、運営されている。下記の表は「ひきこもり地域支援センター相談件数の推移」（表1）、「ひきこもり地域支援センター相談実人数の推移」（表2）である。また内閣府の調査では「広義のひきこもり群」を定義した上で、その期間を明らかにしている（表3）。

このようにひきこもりの実態に対し、下記の表から読み取れる現状を記述した上で、想定される課題とその解決に向けたあなたの考えを述べなさい。（750字以上800字以内）

表1 ひきこもり地域支援センター相談件数の推移 (件数)

	合計	メール	SNS	来所	その他 (訪問等)
令和3年度	120,686	54,508	9,384	659	42,729
令和2年度	118,866	54,823	8,456	428	41,611
令和元年度	116,092	49,017	7,134	-	46,662
平成30年度	104,712	43,314	5,500	-	44,991
平成29年度	102,412	42,245	5,997	-	43,839

注1 SNSによる相談件数は令和2年度から集計している。
出典:厚生労働省, 「ひきこもり地域支援センターの取組状況」, ひきこもり支援推進事業, 2022-03, <https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/000882368.pdf> (参照 2023-09-16) . 一部改変

表2 ひきこもり地域支援センター相談実人数の推移 (人数)

	合計	～10代	20代	30代	40代	50代～	年齢不明
令和3年度	24,323	3,883	6,603	5,489	4,225	2,291	1,832
令和2年度	24,420	3,894	6,980	6,410	3,669	2,194	1,823
令和元年度	26,219	3,675	7,591	6,790	4,047	2,004	2,112
平成30年度	21,935	3,563	7,052	5,686	3,034	1,351	1,249
平成29年度	21,665	3,993	7,279	5,695	2,756	994	948

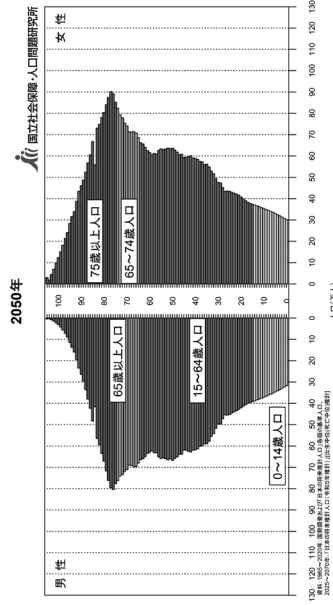
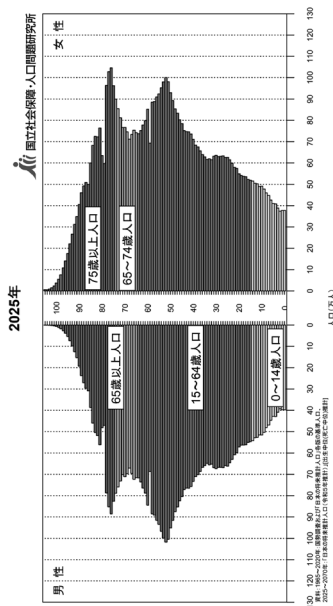
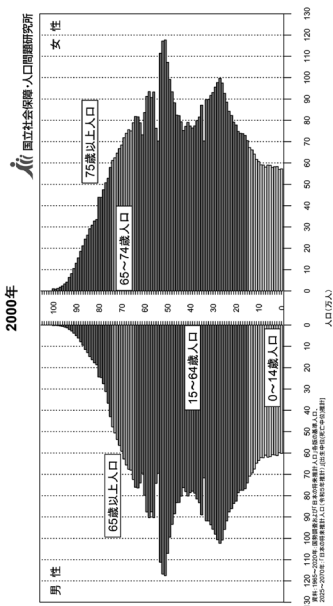
注1 相談を受けた人数に対し年代別に整理している。
出典:厚生労働省, 「ひきこもり地域支援センターの取組状況」, ひきこもり支援推進事業, 2022-03, <https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/000882368.pdf> (参照 2023-09-16) . 一部改変

表3 広義のひきこもり群における現在の外出状況になつてからの期間

15歳～39歳 (n=144)	割合	40歳～69歳 (n=156)	割合
6か月未満		6か月未満	
6か月～1年未満	21.5%	6か月～1年未満	12.9%
1年～2年未満	16.7%	1年～2年未満	14.8%
2年～3年未満	16.3%	2年～3年未満	21.9%
3年～5年未満	17.4%	3年～5年未満	16.1%
5年～7年未満	7.6%	5年～7年未満	11.0%
7年～10年未満	4.2%	7年～10年未満	7.7%
10年以上	17.4%	10年以上	15.5%

注1 「こども、若者の意識と生活に関する調査」では「広義のひきこもり群」の定義として、「普段どのくらい外出しますか」という質問に対し、(1) 自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する、(2) 近所のコンビニなどには外出する、(3) 自室からは出るが、家からは出ない、(4) 自室からは出ない、(5) ほとんど出ないと回答し、かつ、その状態となった6か月以上であると同答した者としており、ただし、次の者を除く。①現在、就業中である旨の回答をしている者等、②身体的な病気を現在の外出理由としている者、③専業主婦・主夫・家事手伝いである旨の回答している者や出産・育児を現在の外出理由としている者等のうち、最近6か月以内に家族以外の人と「よく会話し」「ときどき会話し」と回答している者。
出典:厚生労働省, ひきこもり支援推進事業, 「ひきこもり地域支援センター相談実人数の推移」, 2023-09-16, <https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/00109862.pdf> (参照 2023-09-16)
参考:内閣府, こども・若者の意識と生活に関する調査 (令和4年度) . 2023-03, <https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/ro4/pdf-index.html> . (参照 2023-09-16)

問。以下に示した図は、国立社会保険・人口問題研究所の発行した「人口ピラミッド画像」のうち、2000年・2025年・2050年の画像である。まず、この図から読み取れることを述べなさい。また、この図から読み取ったことを踏まえ、小学校教諭もしくは保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）として、教育・保育の中でのどのようなことを配慮したいか、自身の考えを具体的に記述しなさい。（800字以内）
 なお、小学校教諭と保育者のどちらの立場から述べるかを解答题紙の【 】内で選択してから解答すること。



出典) 国立社会保険・人口問題研究所「人口ピラミッド画像」、2000年の画像・2025年の画像・2050年の画像を引用。
 (https://www.ipss.go.jp/site-ad/TopPageData/PopPyramid2017_1.html)

問題 現代の若者たちが抱える具体的な問題を、最低3点以上取り上げ、それぞれの問題がどのようなものかを簡単に説明しなさい。その上で、その具体的な問題に共通する概念を見出し、問題の抽象化を行って「現代の若者は、 $\times\times$ 社会を生きている」というフレーズの $\times\times$ 部分を埋める形で、抽象化の結果を明示しなさい。最後に、あなたが考えた『若者たちが問題を抱える「 $\times\times$ 社会」』とはどのような社会で、その社会を良い方向に向かわせることができるアプローチ（問題解決の方法）として、どのようなものがあるのか、あなたの考えを述べなさい。解答は、適切に段落に分けた記述を行い、文字数は合計で800字以内とする。なお、執筆にあたり、抽象化の方法などがわからない場合は、必要に応じて下記の【解答のためのヒント】を参考すること。

【解答のためのヒント】「問題発見・解決を図る上での具体化・抽象化の重要性」

昭和女子大学 人間社会学部 現代教養学科が大切にしている姿勢
 に、1) 当たり前を疑いながら問題を見出すこと、2) 社会現象への考えをまとめ、それを他者に伝えつつ、問題の解決を図ること、という2点があります。その姿勢を身につける上で重要になるのが、「具体」と「抽象」を行き来する力です。具体的な事例は、私たちにあって、その成り立ちや背景を理解しやすく、社会現象の理解を深める上で大変役に立ちます。しかし、具体的な理解だけに留まっていると、そこから得られた知見や考えは、特殊なものに留まってしまう。他の事例にも応用できなくなり、多くの他者の興味関心を引くことが出来なくなってしまう。また考えも近視眼的になり、現象の考察から、当たり前を疑うことが困難になってしまうでしょう。この具体性が生み出す問題について、近年絶えず保育所に於ける虐待事件を例に考えてみましょう。個別の報道をより深く探ると、虐待に関わった保育士の背景や評判、運営法人の体制の不備、管理者のさまざまな対応など、一つ一つの事件特有の具体的な背景が見えてきます。しかしながら、それらの知見は、あくまで個人的な問題であることが多く、「ひどい、許せない」という感情を他者に想起されることが出来ても、問題の解決に向けた共通認識や対応策まで生み出すことは困難です。ここで、上述の事件や問題の抽象化を試みてみましょう。抽象化のための方法論として、よく上げられるものに「近い事例と比較して共通事項を探す」というやり方があります。

ここで注意が必要なのは、何と比べるのかによって、共通事項、つまり抽象化の結果として浮かび上がるものが異なるといえる点です。例えば、「園での虐待」の問題を「家庭における児童の虐待」と並べて、その共通点を探すと「勤労世代の多化」や「人権・道徳教育の不足」が共通点として見えてくるかも知れません。一方、「男女の労働格差」の問題と合わせて考えると、保育士を中心となっている女性たちの不安定な雇用・安い賃金やその原因である日本の経済状況等が浮かび上がってきます。つまり、現象の組み合わせによって抽象化の結果としての知見は異なり、その他者への伝わり方も異なってくるのです。また、共通の事項を見つけた際の概念の大きさにも注意が必要です。「園での児童虐待問題」と「家庭での児童虐待問題」の共通事項として、大きすぎる問題・概念—例えば「日本国民の劣化」—を見出し、問題解決のために、具体的に何をしたいのかわからなくなりますし、多くの人にとって身近な問題として受け取りにくくなってしまいます。

つまり、問題発見・解決のツールとして、「具体と抽象を行き来する能力」を使う際は、1) 問題意識を元に具体例を取集すること、2) その中から他者に伝わりやすい具体的問題解決に結びつきやすい抽象度の共通事項・概念を抽出すること、以上の2点が必要であると考えられます。以上に留意しつつ、具体と抽象を行き来することで、他者との間で共通認識を喚起し、共に対策を考え、課題に取り組みることが可能となります。

以上